

共助社会づくりシンポジウムin関西 パネルディスカッション

「共助社会の寄附とボランティア ～震災以降の歩みと今後のあり方～」

2014年6月14日

認定NPO法人 市民活動センター神戸 理事・事務局長
公益財団法人 ひょうごコミュニティ財団 専務理事
実吉 威

●自己紹介

市民活動センター神戸

ひょうごコミュニティ財団

(個人史：元バブル期の金融機関勤務&フリーター)

**1995.1 阪神・淡路大震災を
契機に活動を始める**

(前身の「震災・活動記録室」として)

1999.9 現在の名称に

2010.10 認定NPO法人に

2011.3 東日本大震災

「被災地NPO応援基金」を実施

2011.9 兵庫の仲間とコミュニティ財団づくりに着手

2012.10 「共感寄付」事業開始

2013.6

ひょうごコミュニティ財団設立

2013.7

公益認定を受け、公益財団法人に

2014.5 「福島応援寄付」開始

「共感寄付」を移管、新規スタート

事業

(KEC)

1. NPOの経営支援事業

2. 資源仲介事業

- ・「ひょうごコミュニティ財団」支援事業
- ・「共感寄付」事業
- ・住友ゴム、SAVE JAPAN（損保ジャパン） 他

3. 調査研究と政策提言事業

4. 東日本大震災支援事業

- ・福島応援寄付 www.kobekec.net/kifu-fukushima
- ・「避難サポートひょうご」 他

(コミュニティ財団)

1. 「共感寄付」

2. その他のファンドレイズ事業

3. 地域調査事業 他

事業の紹介

○ 「共感寄付」 事業 (KEC→コミュニティ財団)

(第1期)

6団体 2012年10月～2014年3月

寄付額 3,050,999円 (168件)

(第2期)

6団体 2013年4月～2014年3月

寄付額 1,416,176円 (117件)

計12団体 計4,467,175円 (285件)

⇒現在、コミュニティ財団で新・第1期を準備中

この20年を振り返って 1995→2014

1. 社会全体の意識は大きく変わりつつあるのでは

例) 若い人の職業、就職に関する意識

例) 「経済」だけでなく「社会」にも価値を置く企業の増加

※経済を最重視してきたが、それがもう無理だとみんな気付いている

2. 寄付やボランティアに関する意識も変わってきているが、まだ十分には活かしきれていない

3. 「兵庫＝全国の市民活動のメッカ」はもうはるか昔の話。イノベーションしないで大丈夫か？

4. 新しい動きやネットワークも出てきている。 特に若い人

これからの20年のために 1995→2015→2035

- コミュニティの消失、衰退の加速
- 階級社会（？）の出現
- グローバル化の加速（？）
- 生きる上でのリスクの拡大



- 「共助」「コミュニティ」がキーワード
- 同時に、一人ひとりが「自分の幸せ」を探ることが重要に。

⇒NPOなどの「アソシエーション」はますます重要に

NPO、寄付、ボランティアに戻って 2015→2035

1. 市民参加が重要

どうしても「受益者」に傾斜しがちだが、あえて
「参加者」「支援者」「市民のかかわり」の重視を

2. 中間支援が重要

もっと多くの市民にNPOを「見せ」、参加を増やし、「参加して
よかった」という体験を増やしていくためには、現場のNPO
+中間支援のコラボが重要。そのイノベーションに投資を。

3. NPO自身もイノベーションを

「知識」「ノウハウ」「デザイン」を重視し、
組織自体のイノベーション、人材の育成を

4. 知識やノウハウの共有のためのネットワーク 活動が重要

最後に

●制度は大変重要

「みなし寄附金」などの縮小・廃止の議論があるが、むしろ逆。拡充すべき。

●NPO側もがんばろう

「使わないんだったら、要らないよね？」と言われないうちに。

ご清聴ありがとうございました。

市民活動センター神戸

ひょうごコミュニティ財団 実吉 威